

令和三年度　日蓮宗　大乗山　正念寺

盂蘭盆会　御経本

うらほんえ

おきょうほん



我深敬汝等

（わたしはあなたを深く尊敬します）

ふかんきょううまん

不敢輕慢

（決して軽んじたり侮ったりすることはありません）

しょいしゃが

所以者何 汝等皆行菩薩道

（その理由はといふと、あなたはきっと菩薩の道を歩まれ）

とうとくさぶつ

當得作佛

（将来必ず仏になるべき御方なのですから）

かいきょう げ

開 経 儻

(仏さまの教えに出会うことができることを感謝するための要文)

むじょうじんじんみみよう

ほう

ひやくせんまんごう

無上甚深微妙の法は、百千万劫にも

深く優れた神祕なる法華経

あ たてまつ

がた

限りなく永遠に近い時間

われいまけんもん

遭い奉ること難し、我今見聞し、受持

出会うことは難しい

え

ねが

によらい

信じ行う

することを得たり。願わくは如來の

第一義を解せん。

だいいちぎ

げ

至極の大乗、

しごく

だいじょう

教えを正しく理解できますよう

最上の教えである法華経の真理

思議すべからず、

見聞触知皆菩提に

思考で得られるものではない

見て聞いて触れてること

悟りへの道

近づく。

能詮は報身、

所詮は法身、

しきそう

のうせん

しょせん

ほうしん

ほつしん

色相の文字は、即ち是れ応身なり。

目に写る

この教えを説かれているのはお釈迦さま

お釈迦さまのお姿そのもの

無量の功德、皆この経に集まれり。

むりょう

くどく

みやう

みな

きょう

あつ

是故に自在に冥に薰じ密に益す。

じざい

みよう

くん

みつ

やく

知らず知らずのうちに香りに染まるように功德が身につき密かに利益をもたらす

計り知れない

このゆえ

このゆえ

このゆえ

このゆえ

このゆえ

このゆえ

有智無智

うちむち

罪を滅し善を生ず。

つみ

めつ

ぜん

しよう

若しは信、若しは謗

も

共に仏道を成す。

とも

ぶつどう

じよう

三世の諸仏、

甚深の妙典なり。

三世の諸仏、

甚深の妙典なり。

教えを信じる人

またはそしる人も

生 生世世、

值遇し頂戴せん。

生 生世世、

值遇し頂戴せん。

現在・過去・未来

非常に深い境地を顯された勝れた教え

何度生まれ変わつても

この教えに出会い

さんぜ

じんじん

ちようだい

さんぜ

じんじん

ちようだい

さんぜ

じんじん

ちようだい

みようほうれんげきようだいばだつたほんだいじゅうに

妙法蓮華經 提婆達多品第十二

(八歳の童女による成仏を示したお経)

そ
とき
りゆうによ
ひとつ

ほうじゅ

爾の時に龍女一の宝樹あり、

高価な宝珠

けーじき さんせんだいせんせーかい

価直三千大千世界なり。

も

持つて一

以て一仏に一上る。

ほとけすなわ

これ

仏即ち之を

たてまつ

ただちに

う

献上しました

りゆうによ
ちしゃくーばさつ

受けたもう。

龍女、智積菩薩、

全宇宙に匹敵する価値のもの

もつ

ほとけ

そんじやーし ゃりほつ

い
い

尊者舍利弗にー謂つてー言わく、

「我 宝樹をー 献る。世尊のー納受

わーれー

ほうじゅー

たてまつ

せーそん

のうじゅー

是の事 疾しやー不や

こ
じー

いな

こた

受け取つて下さつた

甚だー疾し 女の言わく、「汝が」

はなはー

とー

によ
い

瞬時だつたか、そうでないか

神力をー以てー我がー成仏をー觀よ。

じんりき

もつ

わー
じょうぶつ

みー

あなた方の

神通力

私が仏に成る様子

復此れよりも速かならん」

とうじー しゅーえー

みーな りゆうによー

こつねん

当時の衆会、

皆

龍女の一忽然の一

集まつていいた一同

あつという間

間

に一変じて一男子と一なつて、

なんしー

男性の姿

ぼさつー

ぎよう

ぐ

菩薩の一行を一具して、

即ちー

果たすべき修行を成し遂げて

なんぽう むくせーかい

ほうれんげー

ゆ

菩薩の一

南方無垢世界に一住いて一宝蓮華に一

汚れなき

美しい蓮華

坐して一等正覺を一成じ、
三十二相。

さんじゅうにそう

とうしょうがく
じょう

ざ

はちじゅつしうごう

最高の悟り

あまね

三十二の吉相

じつぽう

八十種好あつて、普く十方の一

一切衆生の一為に一妙法を一

みようほう

ため

真実の法

生きとし生けるもの

演説するを一見る。

説いている様子

そとき

しゃばせーかい

ぼさつ

しょうまん

てん

爾の時に一娑婆世界の一菩薩・声聞・天・

りゆう

はちぶ

にん

ひーにん

みーなーはる

龍

・八部

・人

とー非

人

とー皆

遙かーに

かー

りゆ
によー

じよ
うぶつ

あまねー

人間以外のもの

遙か彼方の世界で

とき
えー

にんでん

ため

ほう

と

とき

えー

にんでん

ため

ほう

と

見

心

大

に

歡喜

しーて

悉

く

く

みー

こころー

おおいー

かんぎー

ことごと

みんが

遙
かーにー敬
礼す。

はる

きようらい

遙かな世界へ向けて礼拝しました

数限りない

無量のー衆
生

むーりよう

しゅーじよう

その世界の

人間や天人

かんぎー

ことごと

みんが

法を一聞いて一解悟し、不退転を一得、

げ ご

ふーたいてん えー

竜女の説く法華經の教え よく理解し
むーりよう しゅーじよう

後退しない境地に到達し
う

無量の一衆生、

道の一記を一受くる一

いつか必ず仏に成れるという保証

ことを一得たり。無垢世界

六方に一震動

六回、感動に震える

す。娑婆世界の一三千の一衆生

不退の一地に一住し、三千の衆生

絶対に後退しない境地

菩提心ぼーだいしん

おこ

じゅき

え

悟りを求める心

ちしやくーぼさつー

およ

しゃりほつ

いつさい

しゅーえー

必ず仏に成れるという保証

智積菩薩ちせきふさつ

及びよ 舍利弗しゃりふ

一切いつさい のの 衆会しゅーえー

默然もくねん ととししーー 信受しんじゅーす。

集しづまつまつていていたた一一同どう

日蓮聖人にちれんしゆうにん 御妙判ごみょうはん 孟蘭盆御書うらぼんごしょ に曰いわく

もくれんそんじや ほけきょう しん

「目蓮尊者が法華経を信じまいらせし

だいぜん わ みほとけ

大善は、我が身仏になるのみならず、

ふぼほとけ

たも

かみしちだいしもしちだい

父母仏になり給う、上七代下七代、

かみむりようしょうしもむりようしょう

ふぼたち

ぞんがい

上無量生下無量生の父母等、存外に

ほとけ

たも

ないし

しそくふさい

仏となり給う。乃至子息夫妻、

しょじゅうだんな

もりよう

しゅじょう

さんなくどう

所従檀那、無量の衆生、三惡道を

みな

しょじゅうみょうがく

はなるるのみならず、皆、初住妙覺

ほとけ

の仏となりぬ。」と云々

願わくはこの功德をもつて、
あまねく一切に及ぼし、
我らと衆生と皆共に、
仏道を成せん。

